

令和7(2025)年8月28日



葛城市立新庄北小学校

トベラの木



学校だより No.3

校長 中川 純一

8月6日 広島平和記念式典

争いや戦争が起こらないようにするために、私たちは何ができるのか？

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20250806/k10014886041000.html>

↑『平和への誓い』

8月6日、広島平和記念式典で広島市立皆実小学校6年 関口千恵璃さんと
広島市立祇園小学校6年 佐々木駿さんが述べた「平和への誓い」の全文です。

平和への誓い

いつかはおとずれる、被爆者のいない世界。

同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。

原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことはありますか。

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分。

この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。

誰なのか分からないくらい皮膚がただれた人々。

涙とともに止まらない、絶望の声。

一発の原子爆弾は、多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。

被爆から80年が経つ今、本当は辛くて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、直接話を聞く機会は少なくなっています。

どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。

世界では、今もどこかで戦争が起きています。

大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。

その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。

多様性を認め、相手のことを理解しようとする事。

一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。

周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。

One voice.

たとえ一つの声でも、学んだ事実に思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずです。

大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。

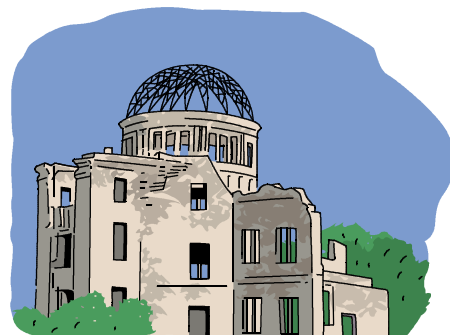
あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。

令和7年（2025年）8月6日

こども代表

広島市立皆実小学校6年 関口千恵璃

広島市立祇園小学校6年 佐々木駿



「平和への誓い」を視聴して…

葛城市内の小学校では、以前8月6日あたりに全校登校日があり、平和学習をしていました。今はどの学校も夏休み中の全校登校日はなくなりましたが、本校では平和学習は生きていく上でとても大切な学習だと考えています。

80年前の8月6日、広島に世界で初めて戦争で原子爆弾が使用され、14万人の人の命が亡くなりました。8月9日、長崎にも原子爆弾が落とされ、7万人の人の命が亡くなりました。1941年から始まった太平洋戦争で、軍人が230万人、民間人80万人の合計310万人の人の命が亡くなりました。死者のうち半数以上が戦闘によるものだけでなく、飢餓や病死であったとのことです。

私は当然戦争は体験したことはありません。しかし、私が小学生か中学生だった頃、亡くなった祖父に戦争のことを教えてもらった記憶があります。1945年の大阪大空襲の日、深夜なのに、大阪の家や工場が燃え、二上山が夕方みたいに明るかったということや今の太田市の近商ストアのあたりに軍需工場があり空襲があったということを祖父が語ってくれたことを覚えています。

戦後80年…。私たちは戦前にしないように、戦争が起こらないように、戦争の事実や戦争で犠牲になった人々のことを知り、今、安心・安全に生活できていること、勉強や運動ができていること、食べ物を食べることができていることに感謝しなければならないと思っています。

「平和への誓い」でも小学生が述べていましたが、多様性を認め、相手のことを理解しようとすることや一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うこと、周りの人たちのために、ほんの少し行動することを心がけて生きていきたいと思っています。